

新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい に ほん

第5回

だい かい

「大学入試センター試験問題」

だい がく にゅう し し けん もん だい

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情を紹介するとともに、中等教育機関や高等教育機関で日本語を教える先生方が、新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業に活用できるかを提案していきます。今回は「大学入試センター試験問題」を取りあげます。日本の大学入試にどのような問題がどのような形式で出題されているのか見てみましょう。

〈大学入試センター試験とは〉

だい がく にゅう し し けん

日本では、1月から3月にかけて大学入学試験が実施されます。そして国立と公立の大学や一部の私立大学を希望する人が、各大学が行う試験の前に受験しなければならないのが大学入試センター試験です。

センター試験は、大学に入学を希望する人の学力を判定するために毎年1月に2日間にわたって全国一斉に行われます。各大学は、このセンター試験と独自の試験、面接などを組み合わせて入学試験とし、合格者を決定します。

センター試験には受験生の高等学校段階での基礎的の学力を知るための問題が出題されています。出題教科・科目は外国語、地理歴史、数学、国語、理科、公民の6教科31科目です。

受験生はその31科目の中から自分が希望する大が指定する科目を受験します。受験には16,000円（2教科以下の場合は10,000円）がかかります。

センター試験を利用する大学は2000年春の場合、全ての国公立大学（161校）と、私立大学（242校）の計403校で、年々増えています。

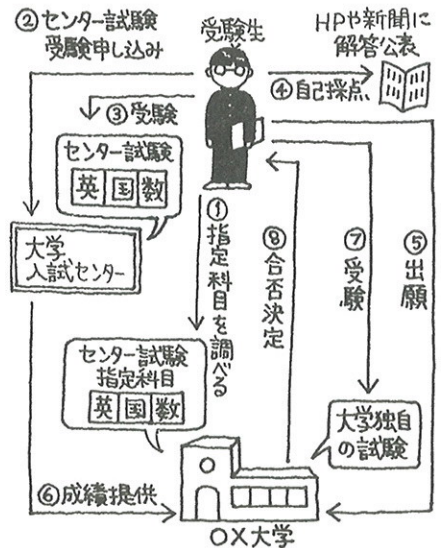
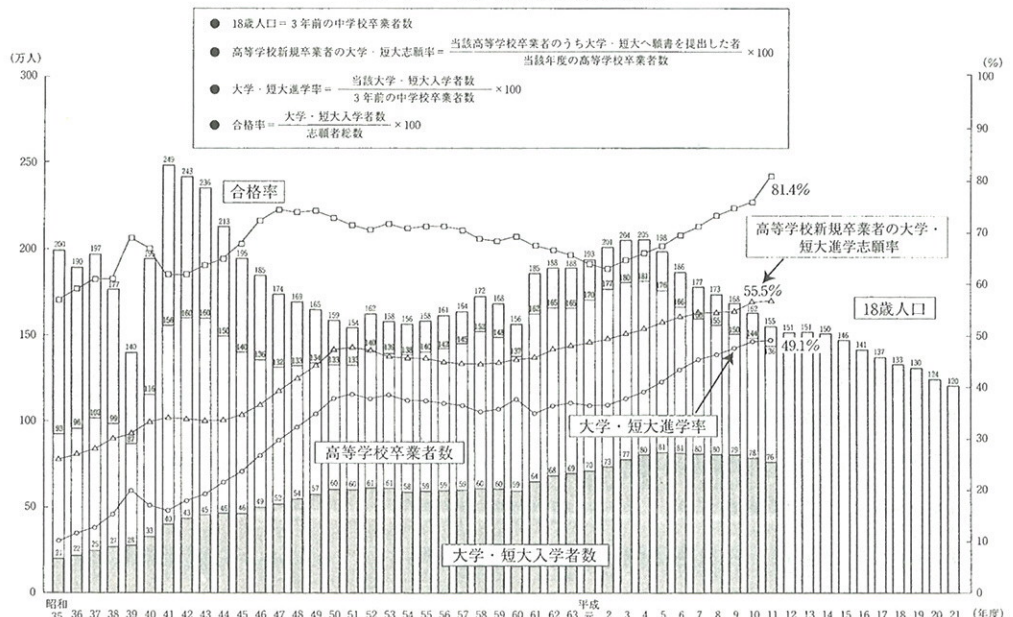


図2-3-1 大学・短期大学の規模等の推移



読売新聞（朝刊）2000年1月17日「国語Ⅰ、Ⅱの出題の抜粋」
『日本語教育通信』2000年5月「新聞・雑誌から見る現代日本」
第5回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載ができません。

読売新聞（朝刊）2000年1月17日「国語 I、II の出題の抜粋」

『日本語教育通信』2000年5月「新聞・雑誌から見る現代日本」

第5回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載できません。

読売新聞（朝刊）2000年1月16日「地理Bの出題の抜粋」 「英語の出題の抜粋」

よみうりしんぶん ちようかん ねん がつ にち ち り しゅつ だい ばっ すい えいご しゅつ だい ばっ すい

『日本語教育通信』2000年5月「新聞・雑誌から見る現代日本」

にほんごきょういくつうしん ねん がつ しんぶん さっし み げん だいにっほん
 第5回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載ができません。

だいごかい けいさい きじ ちよさくけん かんけい けいさい

▲(読売新聞2000年1月16日朝刊)▶

「国語 I・II の出題」を利用した練習案

今回は、国語の出題にある堀辰雄の文章を使った練習を紹介します。

こんかい こくご しゅつ だい ほり たつ お ふんしやう つか れんしやう しやうかい

○文中の「鼠のように遊んだ」（1行目、16行目）と「土竜のような遊び」（35行目）はどんな遊びの様子を表しているのか考えさせる。

○「これ」「それ」など、文中にある指示詞がそれぞれ何を指しているのか考えさせる。

例) それを一枚一枚天井の梁の上に敷きつめた。(2行目)

○文章を段落ごとに分けて、順不同で読ませる。そのあと段落の順番を考え、文章を完成させる。段落は、

例えば文章中の①～⑥のように分けるとよい。

○この文章を書いた堀辰雄について調べさせる。

〈出題の解答〉

国語 I・II 問1

番号 ばんごう	12	13	14	15	16	17	18
解答 かいとう	2	5	3	4	2	5	3

地理B

28
3

英語

9	10	32
3	2	2

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。編集部までお寄せください。

このコーナーの担当＝坪山由美子、長坂水晶（日本語国際センター専任講師）